

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月13日

【四半期会計期間】 第43期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 先

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長 江 貴 史

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長 江 貴 史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第2四半期 連結累計期間	第43期 第2四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	8,037,359	12,108,684	15,344,516
経常利益又は経常損失() (千円)	268,403	1,133,891	190,700
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失() (千円)	114,716	1,353,236	470,798
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	148,331	1,349,102	444,372
純資産額 (千円)	6,263,537	4,321,064	5,670,366
総資産額 (千円)	15,026,556	22,572,754	21,890,029
1株当たり四半期純利益 又は四半期(当期)純損失() (円)	53.65	632.93	220.19
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	41.7	19.1	25.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	412,064	222,537	263,993
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	31,740	13,160	1,475,796
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	554,377	1,271,751	1,125,620
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,843,816	5,074,964	3,568,119

回次	第42期 第2四半期 連結会計期間	第43期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	23.38	94.11

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第42期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第43期第2四半期連結累計期間及び第42期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により消費活動が冷え込み、景況が急速に悪化しました。様々な経済施策により少しずつ回復傾向は見られるとはいえ、感染収束の見通しは未だ立っておらず、消費低迷状況が当面続く見込みです。

外食産業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた店舗の休業や営業時間短縮、そして消費者の外出自粛により来客数が激減しました。店舗とお客様双方にて感染防止対策が定着してきたことにより徐々に客足は戻りつつあるものの、依然として各社とも厳しい経営環境が継続しております。

このような環境の下、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、また、弁当をはじめとするテイクアウトのメニューを拡充する等、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。あわせて、収益回復が見込めない店舗の退店やオペレーション見直しによるコスト低減等により、収益力の維持・改善に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高121億8百万円（対前年同期比50.7%増）、営業損失12億52百万円（前年同期は営業利益2億66百万円）、経常損失11億33百万円（前年同期は経常利益2億68百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失13億53百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1億14百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は171店舗であります。内訳は直営122店舗、暖簾11店舗、FC38店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては4月より焼肉弁当等テイクアウト商品の販売を開始し、以後メニューの多様化やWEB注文対応などサービス拡充を進めたほか、7月より、食べ放題人気の高まりに応えるべく、食べ放題メニューを大幅にリニューアルし、豪快なステーキ肉や豊富なサイドメニュー、多様なアレンジを加えてパワーアップしました。また、「プチごほうびメニュー」、「お肉&ビール モリモリ祭」、「元気をお届け！黒毛和牛メニュー」、アイドルグループ「超ときめき宣伝部」や声優鈴木みのりとのコラボフェア開催等、安楽亭の楽しさを伝える企画を多数実施し、スマホアプリやLINE配信、Twitter等を中心にお客様へのご案内を展開してまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は47億34百万円（対前年同期比29.2%減）となり、セグメント損失（営業損失）は1億42百万円（前年同期はセグメント利益5億12百万円）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は29店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾3店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「七輪房の日」、アイドルグループ「超ときめき宣伝部」や声優鈴木みのりとのコラボフェア、「贅沢かき氷」の販売、「黒毛和牛と生ビール祭」、「山形堪能フェア」、「秋の栗づくしスイーツフェア」の開催等、七輪房の楽しさを伝える企画を多数実施し、安楽亭業態同様、LINE配信等によるご案内を展開してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は8億68百万円（対前年同期比26.1%減）となり、セグメント損失（営業損失）は28百万円（前年同期はセグメント利益63百万円）となりました。

アークミール

アークミール各業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は153店舗であります。内訳は直営152店舗、FC1店舗であります。

なお、アークミール各業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「donイタリアーノ（イタリアン）」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主力各業態において、主力メニューのリニューアル、テイクアウトの拡充等を実施したほか、「肉の日キャンペーン」、「ステーキのどんサーロインステーキフェア」、「夏の牛タンしゃぶしゃぶ食べ放題」、「フォルクス創業50周年祭」等の企画を積極的に展開し、来店促進を図ってまいりました。

以上の結果、アークミールの当第2四半期連結累計期間の売上高は63億55百万円となり、セグメント損失（営業損失）は7億80百万円となりました。

その他業態

その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営5店舗、FC5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「国産牛カルビ本舗安楽亭（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」、「えんらく（焼肉食べ放題）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「香港式中華バル ネイザンロード（中華）」、「アグリコ（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は1億49百万円（対前年同期比14.9%減）となり、セグメント損失（営業損失）は35百万円（前年同期はセグメント損失25百万円）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ6億82百万円増加し、225億72百万円となりました。これは、現金及び預金の増加等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ20億32百万円増加し、182億51百万円となりました。これは、短期借入金の増加等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ13億49百万円減少し、43億21百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等が要因です。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、15億6百万円増加し、50億74百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費の計上3億90百万円、未払消費税等の増加額3億77百万円等により2億22百万円の収入となりました。前年同期と比べ1億89百万円（対前年同期比46.0%）の収入の減少となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出92百万円、敷金及び保証金の回収による収入91百万円等により13百万円の収入となりました。前年同期と比べ18百万円（対前年同期比58.5%）の収入の減少となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる収入18億円、長期借入れによる収入7億40百万円、長期借入金の返済による支出10億93百万円等により12億71百万円の収入となりました。前年同期は5億54百万円の支出でありました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日		2,139,434		3,182,385		147,735

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	267	12.53
柳 時 機	さいたま市浦和区	171	8.00
株式会社北与野エステート	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	105	4.95
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目23 - 1	100	4.68
柳 允	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 詠 守	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 京	さいたま市浦和区	55	2.62
柳 先	文京区小日向	55	2.62
柳 朱 理	渋谷区代々木	55	2.62
株式会社Be-fresh	幸手市北二丁目6 - 5	53	2.50
計		978	45.76

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,126,300	21,263	
単元未満株式	普通株式 11,834		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,263	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式88株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	1,300		1,300	0.06
計		1,300		1,300	0.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,573,998	5,080,843
受取手形及び売掛金	678,520	616,829
商品及び製品	146,388	226,564
仕掛品	1,309	1,893
原材料及び貯蔵品	884,147	607,432
前払費用	441,901	399,873
その他	299,610	238,979
貸倒引当金	4,907	4,907
流動資産合計	6,020,969	7,167,509
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,810,324	3,606,898
機械装置及び運搬具（純額）	70,948	60,828
工具、器具及び備品（純額）	414,749	352,593
土地	6,290,349	6,290,349
リース資産（純額）	195,102	146,908
建設仮勘定	68,986	158,481
有形固定資産合計	10,850,461	10,616,061
無形固定資産		
のれん	69,876	58,474
その他	427,869	424,112
無形固定資産合計	497,745	482,586
投資その他の資産		
投資有価証券	134,525	140,198
長期貸付金	10,828	10,534
長期前払費用	377,845	330,074
繰延税金資産	306,783	277,226
敷金及び保証金	3,683,310	3,542,185
その他	34,555	33,305
貸倒引当金	26,996	26,926
投資その他の資産合計	4,520,852	4,306,597
固定資産合計	15,869,059	15,405,245
資産合計	21,890,029	22,572,754

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,062,389	845,559
短期借入金	2,522,572	4,245,688
リース債務	105,156	85,421
割賦未払金	252,521	237,003
未払金	545,971	585,288
設備関係未払金	54,566	12,975
未払費用	1,006,168	1,380,532
未払法人税等	156,861	237,059
未払消費税等	393,306	770,422
賞与引当金	161,175	109,253
転貸損失引当金	13,297	13,297
店舗閉鎖損失引当金	41,899	91,963
資産除去債務	15,058	28,638
その他	578,985	746,087
流動負債合計	6,909,929	9,389,190
固定負債		
長期借入金	6,766,030	6,489,428
リース債務	198,919	159,599
長期割賦未払金	796,907	755,513
繰延税金負債	103,715	104,215
役員退職慰労引当金	349,335	108,208
転貸損失引当金	22,836	16,187
退職給付に係る負債	560,640	539,885
資産除去債務	378,721	359,278
その他	132,625	330,181
固定負債合計	9,309,733	8,862,498
負債合計	16,219,662	18,251,689
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	25,054	1,328,181
自己株式	7,601	7,801
株主資本合計	5,671,936	4,318,500
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,043	130
為替換算調整勘定	1,576	1,576
退職給付に係る調整累計額	5,049	4,009
その他の包括利益累計額合計	1,570	2,564
純資産合計	5,670,366	4,321,064
負債純資産合計	21,890,029	22,572,754

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	8,037,359	12,108,684
売上原価	2,898,926	4,429,273
売上総利益	5,138,433	7,679,411
販売費及び一般管理費	1 4,872,394	1 8,931,751
営業利益又は営業損失()	266,038	1,252,340
営業外収益		
受取利息	544	2,436
受取配当金	1,263	1,948
受取地代家賃	3,126	34,213
貸倒引当金戻入額	161	
助成金収入		132,362
その他	18,950	13,547
営業外収益合計	24,045	184,507
営業外費用		
支払利息	17,648	46,233
賃貸収入原価	2,916	18,480
その他	1,116	1,345
営業外費用合計	21,680	66,059
経常利益又は経常損失()	268,403	1,133,891
特別利益		
固定資産売却益	15,267	
受取保険金	52,016	
受取補償金	25,000	
特別利益合計	92,284	
特別損失		
固定資産除却損	7,895	23,923
固定資産圧縮損	50,185	
投資有価証券評価損	39,926	
減損損失		3,535
賃貸借契約解約損	5,520	125,045
災害による損失	868	
特別損失合計	104,395	152,505
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	256,291	1,286,397
法人税、住民税及び事業税	129,350	36,756
法人税等調整額	12,224	30,082
法人税等合計	141,575	66,839
四半期純利益又は四半期純損失()	114,716	1,353,236
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	114,716	1,353,236

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	114,716	1,353,236
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	34,053	5,174
為替換算調整勘定	437	0
退職給付に係る調整額		1,039
その他の包括利益合計	33,615	4,134
四半期包括利益	148,331	1,349,102
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	148,331	1,349,102

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	256,291	1,286,397
減価償却費	264,358	390,925
減損損失		3,535
のれん償却額	11,402	11,402
貸倒引当金の増減額(は減少)	161	69
賞与引当金の増減額(は減少)	4,100	51,921
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	28,440	6,568
転貸損失引当金の増減額(は減少)	6,648	6,648
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)		50,063
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	1,081	22,320
受取利息及び受取配当金	1,807	4,385
助成金収入		132,362
支払利息	17,648	46,233
為替差損益(は益)	73	816
固定資産売却損益(は益)	15,267	
受取保険金	52,016	
受取補償金	25,000	
固定資産除却損	7,895	23,923
固定資産圧縮損	50,185	
投資有価証券評価損益(は益)	39,926	
賃貸借契約解約損	5,520	125,045
災害による損失	868	
売上債権の増減額(は増加)	42,304	61,691
たな卸資産の増減額(は増加)	26,347	195,956
前渡金の増減額(は増加)	4,865	2,737
仕入債務の増減額(は減少)	30,597	216,830
未払金の増減額(は減少)	55,406	18,378
未払消費税等の増減額(は減少)	24,699	377,115
未払費用の増減額(は減少)	36,403	362,408
預り金の増減額(は減少)	24,721	179,894
前受収益の増減額(は減少)	26,982	21,091
その他	26,150	162,664
小計	488,483	240,578
利息及び配当金の受取額	1,359	3,836
助成金の受取額		100,733
利息の支払額	17,791	40,637
保険金の受取額	1,831	
補償金の受取額	25,000	
店舗閉鎖に伴う支払額	1,920	85,980
災害による損失の支払額	868	
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	84,030	4,008
営業活動によるキャッシュ・フロー	412,064	222,537

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	183,741	92,019
有形固定資産の除却による支出		2,844
有形固定資産の売却による収入	72,449	
無形固定資産の取得による支出	22,288	26,339
事業譲受による支出	76,000	
敷金及び保証金の差入による支出	43,375	22,727
敷金及び保証金の回収による収入	282,579	91,530
預り保証金の返還による支出	5,549	4,000
預り保証金の受入による収入	18,500	
貸付けによる支出	5,800	100
貸付金の回収による収入	272	953
投資その他の資産の増減額（は増加）	5,308	68,707
投資活動によるキャッシュ・フロー	31,740	13,160
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入		1,800,000
長期借入れによる収入	100,000	740,000
長期借入金の返済による支出	543,729	1,093,486
割賦債務の返済による支出	99,676	120,010
リース債務の返済による支出	10,541	54,553
自己株式の取得による支出	430	199
財務活動によるキャッシュ・フロー	554,377	1,271,751
現金及び現金同等物に係る換算差額	291	604
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	110,863	1,506,844
現金及び現金同等物の期首残高	2,954,680	3,568,119
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,843,816	1 5,074,964

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第2四半期において、前連結会計年度に記載した会計上の見積りを行う上での仮定についての重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
減価償却費	241,144千円	370,878千円
賞与引当金繰入額	60,631千円	44,304千円
退職給付費用	14,444千円	33,265千円
役員退職慰労引当金繰入額	6,954千円	6,568千円
給料手当	2,315,177千円	3,872,674千円
地代家賃	910,197千円	1,961,809千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金	2,844,832千円	5,080,843千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,015千円	5,879千円
現金及び現金同等物	2,843,816千円	5,074,964千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,686,355	1,174,741	176,263	8,037,359	8,037,359		8,037,359
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	6,686,355	1,174,741	176,263	8,037,359	8,037,359		8,037,359
セグメント利益又は 損失()	512,081	63,546	25,362	550,265	550,265	284,226	266,038

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、(株)FSDから2店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては60,668千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	4,734,683	868,680	6,355,320	149,999	12,108,684	12,108,684		12,108,684
セグメント間の 内部売上高 又は振替高								
計	4,734,683	868,680	6,355,320	149,999	12,108,684	12,108,684		12,108,684
セグメント損失 ()	142,316	28,237	780,539	35,449	986,542	986,542	265,797	1,252,340

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては3,535千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	53円65銭	632円93銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失()(千円)	114,716	1,353,236
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	114,716	1,353,236
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,241	2,138,048

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。